

保育環境評価スケール 全園実施の取り組み

2022年度 多摩市保育協議会 保育士会

保育環境評価スケールとは？

- アメリカで開発された保育の質を測る尺度で、現在世界20か国以上で調査研究や自己評価に用いられています。多摩市保育協議会では、このスケールの翻訳者でもある埋橋玲子氏（現大阪総合保育大学 児童保育学部教授）と共に研修を重ねてきました。
- 保育室の環境構成・食事や保健衛生や安全・子どもと保育者のやりとりなど35の項目におよび客観的な指標に基づき保育の振り返りや検討を行います。
- 客観的視点に基づいて「なぜそのような保育なのか」を保育者が話し合うことは、「保育者と子どもの関わり」と「関わりを通して育まれる子どもの学びに向かう力」を保障し、自分達の保育をみつめ、保育の質の向上につながっています。

保育環境評価スケール乳児版


サブスケール	項目
1. 空間と家具	1. 室内空間 2. 養護・遊び・学びのための空間 3. 室内構成 4. 子どもに関する展示
2. 養護	5. 食事／間食 6. オムツ交換／排泄 7. 保健衛生 8. 安全
3. 言葉と絵本	9. 子どもと話す 10. 語彙の拡大 11. 子どもからのコミュニケーションへの応答 12. 子どもからのコミュニケーションの促進 12. 保育者による絵本の使用 13. 絵本に親しむ環境
4. 活動	15. 微細運動（手や指を使う） 16. 造形 17. 音楽リズム

サブスケール	項目
	18. 積み木 19. ごっこ（見立て・ふり・つもり）遊び 20. 自然 21. 数・量・形など 22. ICTの活用 23. 多様性の受容 24. 粗大運動(身体を大きく動かす) 遊び
5. 相互関係	25. 粗大運動遊びの見守り 26. 見守り（粗大運動以外） 27. 子どもどうしのやりとり 28. 保育者と子どものやりとり 29. あたたかな身体的関わり 30. 望ましいふるまいの導き
6. 保育の構造	31. 日課と自由時間 32. 自由遊び 33. 集団での遊び

保育環境評価スケール幼児版

サブスケール	項目
1. 空間と家具	1. 室内空間 2. 養護・遊び・学びのための空間 3. 遊びと学びのための室内構成 4. ひとりまたはふたりのための空間 5. 子どもに関する展示 6. 粗大運動遊びの空間 7. 粗大運動遊びの設備・用具
2. 養護	8. 食事／間食 9. 排泄 10. 保健衛生 11. 安全
3. 言葉と絵本	12. 語彙の拡大 13. 話し言葉の促進 14. 保育者による絵本の使用 15. 絵本に親しむ環境 16. 印刷（書かれた）文字に親しむ環境
4. 活動	17. 微細運動（手や指を使う） 18. 造形 19. 音楽リズム

サブスケール	項目
	20. 積み木 21. ごっこ（見立て・ふり・つもり）遊び 22. 自然／科学 23. 遊びのなかの算数 24. 日常生活の中の算数 25. 数字の経験 26. 多様性の受容 27. ICTの活用
5. 相互関係	28. 粗大運動の見守り 29. 個別的な指導と学び 30. 保育者と子どものやりとり 31. 子どもどうしのやりとり 32. 望ましい態度・習慣の育成
6. 保育の構造	33. 移行時間と待ち時間 34. 自由遊び 35. 遊びと学びのクラス集団活動



保育協議会 保育士会
振り返り

小規模保育園をのぞく市内認可保育園全園で実施

- ・各園にて年間2回を実施
- ・1回目と2回目の間に経過を持ち寄り振り返りと2回目に向けての情報交換を行う
- ・2回目終了後、変化等を含めた振り返りを実施

全体のまとめ、保育の質の向上がわかる報告方法、
次年度以降についての話し合いを実施

Keep できたこと / 継続すること

保育についての話し合いに関すること

- ・言いづらいことをストレートに伝えられる
- ・言われたことを受け止められる
- ・フィードバック（検討会）で具体的に伝えることで、改善点がわかりやすく、課題がより明確になる
- ・改善点も一緒に話し合うことができる
- ・様々なキャリアの人が意見が言える

保育の変化について

- ・理解しやすいツールとして汎用できるので、実際に保育が変化した
- ・保育力アップ 発達への理解の高まり、声の大小の意識、穏やかな保育へ、専門性の深まり
- ・衛生問題の改善
- ・保育環境の改善（壁面、モビール、写真や、子ども作品の展示方法など）
- ・実施前は改善点が据え置きになっていたが、改善のスピードがあがった
- ・2回実施したことで、確実に改善が見られた（言葉がけ、コミュニケーション）

職員のモチベーションアップ

- ・保育の話が沢山できる
- ・評価をするメンバーに職員がなることで、お互いの気持ちがわかるようになった
- ・共通の意識と課題の共有ができる（気づきの共有）→クラスとしても園としてもまとまりができ、強みになる
- ・「子どものために」という共通の意識がもてた

Problem 改善すべき問題点

回数を重ねていくための課題

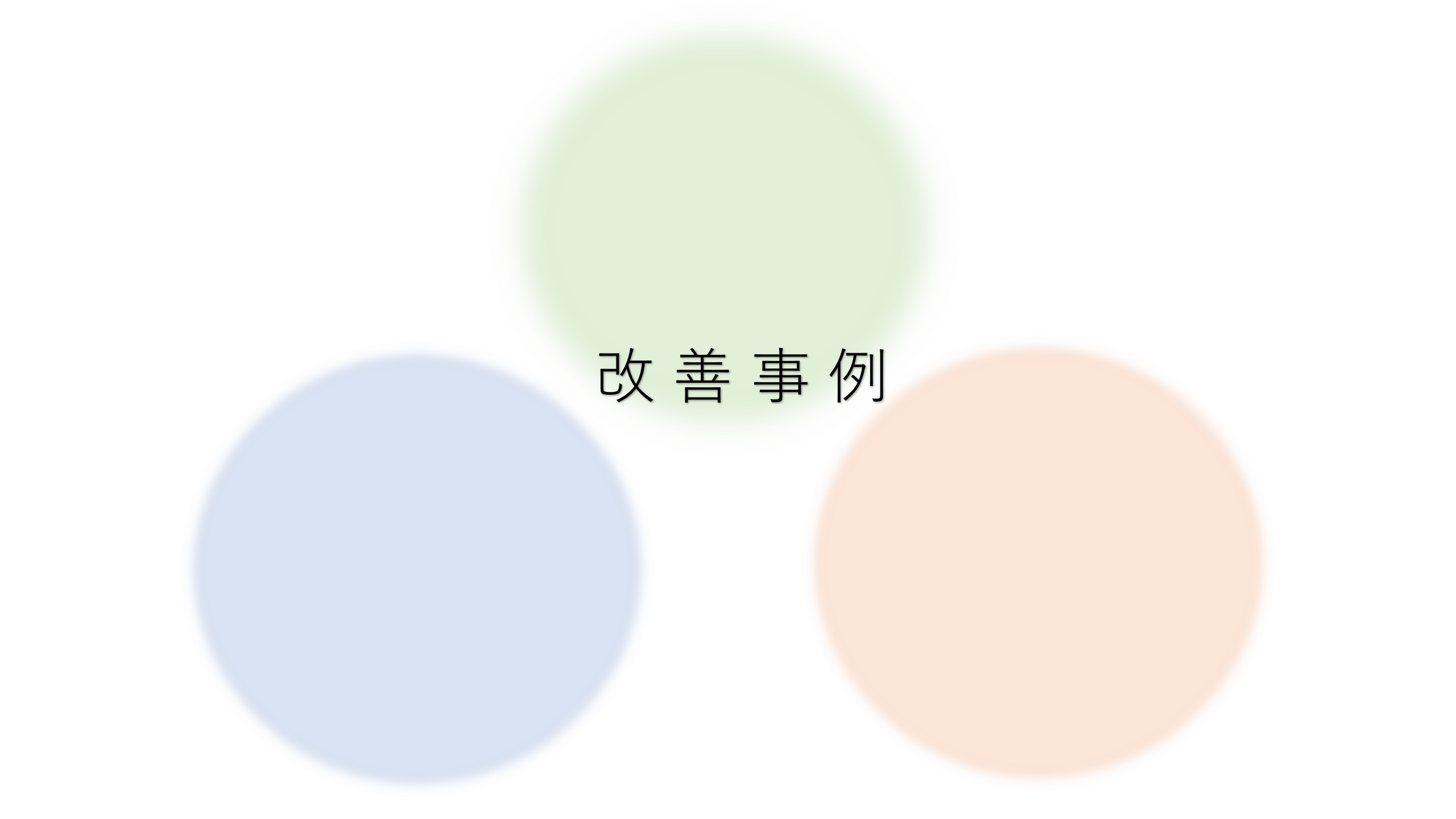
- ・ 実施のための日程調整と人員確保
 観察する時間、検討会の時間の確保、人員の確保（実施の間の保育の人員の確保）
- ・ 評価項目の内容と理解（深く読み解くこと）
 →何回も理解をより深めることが必要

園としてどう取り組んでいくか？（園全体の意識）

- ・ 評価されることへ抵抗のある職員との意識共有→自分のためにもなることを伝えていく
- ・ 園内への報告と共有の方法 →回覧形式で写真、文字などを提示

Try 挑戦したいこと

- ・ 経験年数に関係なく、より多くの職員が観察者（評価者）になり、意見を聞きたい
→よりよい保育を目指しての話し合いの実施
- ・ 実施回数を増やすことで様々なキャリアの職員が観察者（評価者）を行う→観察にも学びがある
- ・ 来年度違うクラスになってもやっていきたい
- ・ 項目を選びながら、ハードルを下げながら実施してもよいのではないか？
→じっくり観察することができる
- ・ 園内にて「保育環境評価スケール」の内容の細かい部分まで理解できる人を増やす
- ・ 「保育環境評価スケール」を読み合って必要な項目をみんなできめていくとよいと思う
- ・ 年間計画にいれていく
→クラスから「この日にやりましょう」と声がかかるとよい
→すぐにではなくても、続けることが大切
- ・ 安心して話し合える雰囲気をつくるためにも、回数を増やし、内容の理解を深めていきたい



改善事例

サブスケール1 ▶ 空間と家具 項目2 養護・遊び・学びのための家具



2歳児クラス

今までは絵本コーナーがオープンになっていたが、棚で区切りクッションを置いて場所を確保したことでゆったりと落ちつける場所ができた。子どもたちのホッとできるコーナーとなり、家にいるようにリラックスしている。

サブスケール 1 ▶ 空間と家具 項目 4 子どもに関する展示
サブスケール 3 ▶ 言葉と絵本 項目 9 子どもと話す



2歳児クラス

新しい保育室になったことで、写真など貼るスペースが十分できたので、子どもの興味あるものや、遊びにつながりそうな写真をコーナーにわけ貼りました。子どもたちが玩具で表現しようしたり、保育士と作ったりすることで、言葉の獲得や広がりが出てきました。

サブスケール4 ▶ 活動 項目26 多様性の受容



人種、性別、文化の多様性を示す道具や教材が足りていなかったなので人形や絵本を取り入れた。W杯の盛り上がりで国旗に興味関心がある子どもの姿が見られたので国旗や国名だけではなく挨拶の仕方や食べ物や建造物など国ごとの特色をICTも活用しながら調べる活動を取り入れた。

サブスケール▶ 1 空間と家具 項目5 こどもに関する展示



評価スケール実施後から、意識して喜んで答えられるような質問をしたり、たくさん会話をしながら鬼の制作の活動を進めたところ、個性的な作品が出来上がりひらがなの表示もするようにしました。自分の作品や友だちの作品のひらがなで書いた表示にも、興味を持ちながら見る姿が見られました。

サブスケール4 ▶活動 項目22 自然/科学



3歳児クラス

“寒い”を目や感触で経験するためにヨーグルトカップ入れた水を戸外に置いてみました。とても寒い朝、見事に凍り、触って“冷たい”を感じたり空に透かしておひさまの輝きを感じたりと子どもたちの目も輝いていました。冷たいね、キレイだね、キラキラだねと、たくさん語彙も添えました。



次年度へ向けて

これはやっていきたい！

これはやっていきたい！

- ・ 継続して実施し、少しずつ定着させていく
(園内で多数の職員が観察者を経験しながら回数をこなし、
スケールの理解を深めていく)
- ・ 年間計画の中にあらかじめ入れて、計画的に実施
- ・ 乳児と幼児を交代で実施していく
- ・ 見学交流会の実施
(同一法人内、法人を超えて、他の園のスケール評価に参加)
- ・ 目には見えない言葉や応答的な対応などの項目も重視していきたい
- ・ 空間と家具や遊びの質の向上のための家具や遊具購入の予算化
- ・ 「不適切な保育」の防止のためにも積極的に実施していく
(全園で実施していることそのものが、多摩市の保育の質につながる)